

華岳山恩林寺発行



顛飽袋 738

令和5年12月号



写真：茶筌供養呈茶席にて筆者



お寺へ行こう 和尚さんと友だちになろう

中山かんのん  華岳山 恩林寺

中山中学校下

☎506-0052 岐阜県高山市下岡本町2779

✉kagakuzan@onrinji.com ☎(0577)34-1245



<https://onrinji.com/>

縁もゆかりも

この九月十日、残暑厳しい日の午後、私はかねてからの縁により飛騨国分寺において茶筌ちやせん供養の法要に参列させていただき例年のように司会を務めさせて頂きました。



今年には表千家同門会岐阜支部長様はじめ他二名の先生方のご臨席を賜り、一層緊張致しました。さて、この茶筌供養は今年で56回目との事、昭和44年春の彼岸に私達、林千代子先生の社中が国分寺に集まりご本堂で、先代住職、哲雄和尚様導師のもとに始めたのがきっかけで

あります。

法要後の反省会で「ぜひ、これを機会に茶筌塚を建立しよう。」

との話が持ち上がるが賛否両論。



飛騨国分寺 茶筌塚

「高山では八幡様に筆塚というのがあるが山川草木、我々手元にあるすべてのものには命があり、これに感謝することは茶道の精神にも通ずるものです。」と和尚様の言葉があり、その後の秋の彼岸までに募金活動、庭師の手配、開眼供養の計画など多忙な半年でした。

私達のお茶の先生、林千代子先生につきましては、先般、高山市文化協会発行の『広報、高山の文化』に浅野晶子先生が紹介下さいましたので割愛させて頂きますが、林先生は五十歳を過ぎてから単身京都に出られ、表千家十三代家元、即中齋宗匠そくちゆうさいの内弟子となられ、古いしきたりの高山のお茶の世界に新しい一石を投じていただきました。その後毎年の茶筌供養の後の副席として野点のだけや庫裏くらを開放して頂き茶席を設けたものです。先生が亡くなり、しばらくは社中で行事を引き継いでおりましたが第40回をきっかけに表千家

各社中皆さんで作る好友会に引き継いで頂いた経緯があります。こうして今日まで行事は継承されたのですが、好友会組織はさらに発展し、今から15年程前、表千家同門会全国大会が高山市に決まり家元宗匠をはじめとする全国各支部の皆様たちをお迎えする一大イベントが開催されました。当日、東京からお越しの酒井さん(旧姓、新谷さん)に声をかけられました。

「皆さんは、今もお茶を続けておいでですか。私は若いころ林先生の社中に仲間入りさせて頂き結婚して東京に落ち着きましたから、あるお方の紹介で東京の

先生の門を叩くことになりました。」「私は以前、田舎である飛騨高山で少しだけお稽古に通いました。」と言いますと先生は、「そうですか。それではお薄を一服頂戴致しましょう。」と、いきなりお点前をする事となり、固くなりながら

どうにか先生の前にお茶をさしだしますと、「結構なお手前ですね。」「はっ。はい。」



「私はあなたのお点前を褒めているわけではありませんよ。あなたをご指導された先生を褒めているのです。」と言われました。

「高山の思い出はとてもいいこと

ばかりで林先生のお稽古場の事を、時々思い出しているのです。」「酒井さんは涙ながらに話してくれました。」

私は先生のお稽古場に三十五年お見送りしてから二十五、何のお役にも立たず年とともに次第に横着なことをしておりますが、昔から縁もゆかりも、などと申しておりますが、縁とゆかりは目に見えないだけで果てしなく繋がっているようです。



住職合掌



華岳山 忍林寺

住職 古田 正彦

新堂 小森 鳳雅

小僧さんの



【第二章 九節】臘八大摂心

師走にはとても過酷な修行が待ち受けています。その名も臘八大摂心。臘月の八日間（12月の1日から8日夜明けまで）心と向き合います。お釈迦様が七日間坐禅をし八日目の朝に悟られた事に準えて始まった修行で私たちも同じ様な体験をしていきます。

この期間中は通常より早い3時起床。夜明け前に開門し朝のお勤めを行った後から粥（朝ご飯）の時間まで坐禅となります。

斎座（昼食）や薬石（夕食）・夕方のお勤め以外の時間は、全て

坐禅をする事となり、風呂を頂くことすら許されません。

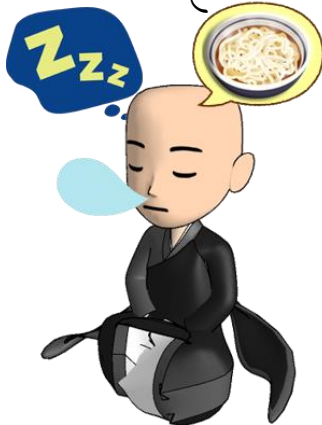
22時頃に4玉程のうどんを頂戴するのですが、胃袋の小さな私には、かなりの量となります。

満腹状態で

0時過ぎまで

坐禅をし、

座つたままの



状態で翌朝3時まで眠りにつきました。この生活が7日間続くと、自分が分からなくなっていく

ます。膝が痛いことすら忘れ

り、幻想を見るようになって…

最終日の夜にかけては眠ることすら禁じられます。一晚中叩かれ背中

中は膨れ上がり、見事に

痣だらけになりました。

悟り



8日目の夜明け、成道会という

お釈迦様が悟られた事に感謝する法要があります。

法要後に師家（師匠）より、悟り

について問われました。

こんなに大変な7日間を乗り

越えても、私には悟りが何か分か

りませんでした。しかし、美しく

見えた夜明けの世界を未だに覚

えています。きっと自身の糧にな

つたのではないのでしょうか。

まだ書ききれない事がたくさん

あります。詳細は

今後お話しして

いきたいと思います。

